

高校生の英語学習に対する意識と取り組み

—英語科と普通科の生徒の比較を通して—

宮城県／宮城県仙台東高等学校 教諭 畠山 喜彦

概要 英語科と普通科を併設している本校（宮城県仙台東高等学校）で指導をしていると、英語科と普通科の生徒の違いに驚かされる。両学科の生徒の特徴を調査・比較することは本校の英語指導を向上させるのはもちろん、高等学校における効果的な英語指導を模索するために意義があると考える。そこで、本研究では(1)「普通科と英語科の生徒の英語及び英語学習に対する意識と取り組みの傾向を、調査紙法により明らかにする」、(2)「各科ごとの傾向・差異・習熟度による差などを分析することを通して、学校現場における英語指導を向上させるための示唆を得る」の2点を目的とした。

1 はじめに

学校現場において英語を指導する際、生徒が英語学習に対してどのような意識を持ち、どのような取り組みをしているかを知ることは重要である。英語科と普通科を併設している本校（宮城県仙台東高等学校）で指導をしていると、両学科の生徒の違いに驚くことが多い。効果的な英語指導を考えた際、両学科の生徒がどのような特徴を持っているかを把握する必要がある。そこで、英語科と普通科の生徒の英語学習に対する意識と取り組みを調査し、本校での英語指導を考えるための一助としたい。更に高等学校における効果的な英語指導法を模索するための示唆につながればと考える。

2 本調査の背景

今回の調査は、両学科の生徒が持つ学習者要因に

についての調査と言える。学習者要因は様々な形で分類されるが、Skehan (1989) による情意要因 (affective factor) と認知要因 (cognitive factor) の2つを採用したい。情意要因は更に動機づけと態度に分類される。Larsen-Freeman and Long (1991) は態度要因が習熟度の原因となると同時に習熟度が態度要因を変化させる原因となっている。また認知要因は適性と学習ストラテジーに分類される。Cummins (1980) や Skehan (1989) は言語適性を1つの能力として見るのではなく、様々な能力の集まったものとしてとらえる必要があるとしている。更に Wesche (1981) は学習者の持つ言語適性と指導法が一致することが大事であるとまとめている。学習ストラテジーは学習者要因の中でも最近になって注目を浴びてきた分野であるが、Oxford (1990) は、「学習をより容易に、より速く、より楽しく、より自主的に、より効果的に、また新しい状況への応用可能性を高めるために学習者がとる特定の行動」と定義づけた。

3 調査

3.1 目的

宮城県仙台東高等学校における、普通科と英語科の生徒の英語学習に対する意識と取り組みの傾向を明らかにする。またその分析を通して、学校現場における英語指導法を向上させるための示唆を得る。

3.2 被調査者

被調査者は、宮城県仙台東高等学校の英語科2年(71名)と普通科2年(79名)合計150名である。仙台東高校は仙台市南東部にある各学年普通科6学級、

英語科2学級の県立高校で、生徒の8割が大学や短大への進学を希望している中堅校である。

3.3 予備調査

本調査の質問紙を作成するために、自由記述方式のアンケートにより予備調査を実施した。予備調査は、情意要因の「動機づけ」「態度」、認知要因の「適性」「学習ストラテジー」のそれぞれに関する7つのカテゴリーを想定して実施した。「動機づけ」に関するものとして、「英語に対する意識」「英語学習の目的」。「態度」に関するものとして、「英語学習の楽しさ」「英語学習に対する姿勢」。「適性」に関するものとして、「英語学習に対する適性・自信」。「学習ストラテジー」に関するものとして、「英語学習への普段の取り組み」「テスト直前の取り組み」。以上の7つのカテゴリーに関して生徒に自由記述させた。この記述内容から回答数が多かったものを中心に、各カテゴリーに関する質問（61項目）を決定した。

3.4 本調査

3.4.1 材料

上記の予備調査をもとに作成した質問紙を材料として使用した。質問紙は、「英語に対する意識」「英語学習の目的」「英語学習の楽しさ」「英語学習に対する姿勢」「英語学習に対する適性・自信」「英語学習への普段の取り組み」「テスト直前の取り組み」の、7つのカテゴリーに関する質問61項目からできている。回答方法は「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」「どちらともいえない」「少し当てはまる」「よく当てはまる」の5段階法とした。

3.4.2 手順

調査者の授業時間を利用して、本調査を実施した。被調査者には、本回答が評価の材料として使用されないことが口頭で説明された。記名方式で調査を実施した結果、英語科71名、普通科79名、合計150名の回答が有効なデータとして回収された。

4 結果と考察

4.1 集計方法

集められたデータは「よく当てはまる」を5点、「少し当てはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、

「あまり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点とし得点化された。得点化されたデータはカテゴリーごとにまとめ、下記の各群間で有意差が存在するかを分散分析により検定した。その際、カテゴリーの傾向を調査するのに不適切と思われる9項目を除外して52項目を調査に使用した。なお分析には「Excel 統計2002」（社会情報サービス）を使用した。

4.2 英語科全体と普通科全体の比較

得点化されたデータをカテゴリーごとにまとめ、英語科群（71名）と普通科群（79名）の間で有意差があるかを、分散分析により検定した。

■ 表1：英語科全体 vs 普通科全体

カテゴリー	英語科全体 (N=71)		普通科全体 (N=79)		F
	Mean	SD	Mean	SD	
英語に対する意識	3.93	1.21	3.48	1.32	$F_{(1,1048)} = 32.46^{**}$
目的意識	3.40	1.33	2.89	1.28	$F_{(1,898)} = 33.63^{**}$
楽しさ	3.85	1.12	3.17	1.14	$F_{(1,1498)} = 138.16^{**}$
学習に対する姿勢	3.04	1.21	2.68	1.20	$F_{(1,748)} = 17.30^{**}$
適性・自信	2.88	1.25	2.43	1.17	$F_{(1,748)} = 26.18^{**}$
普段の取り組み	3.40	1.40	2.94	1.56	$F_{(1,1798)} = 43.37^{**}$
テスト直前の取り組み	4.00	1.23	3.69	1.34	$F_{(1,1048)} = 15.17^{**}$

** $p < .01$

すべてのカテゴリーにおいて英語科の生徒は普通科の生徒よりも高い得点を取り、すべてのカテゴリーにおいて1%水準での有意差が見られた。英語学習に対する意識及び取り組みにおいて、英語科の生徒は普通科の生徒とは全く異なった集団であることが確認できた。また、F値を見ると「楽しさ」が($F_{(1,1498)} = 138.16^{**}$)と際立って高い値を示していることがわかる。英語科の生徒が英語学習を楽しんでいることが、英語科の生徒の大きな特徴といえる。この意欲的で英語学習を楽しみにしている集団に、どのような指導をすべきかを考えていくことが我々

の責任と考える。

4.3 カテゴリーごとの比較

学校における英語の成績を英語習熟度の指標として、英語科・普通科それぞれで上位30名・下位30名を抽出し、英語科上位群・下位群、普通科上位群・下位群とした。点数化された結果を、前記の7カテゴリーごとに英語科上位群と普通科上位群、英語科下位群と普通科下位群、更に各学科内の上位群と下位群の間で分散分析を行った。両学科の間でどのような傾向の違いが見られるか、また各学科内の上位と下位でどのような違いが見られるかを分析することは、効果的な英語指導を考えるための手がかりになると考える。

■ 表2：英語に対する意識

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	3.99	3.92	3.70	3.33
SD	1.24	1.16	1.24	1.37

「英語に対する意識」は、英語科と普通科の上位群同士の比較で ($F_{(1,418)}=5.95^*$) と5%水準での有意差、下位群同士では ($F_{(1,418)}=22.26^{**}$) で1%水準の有意差が見られた。英語科内での上位群と下位群の間では有意差が見られないが ($F_{(1,418)}=0.37$)、普通科内での上位群と下位群の間では1%水準で有意差が見られた ($F_{(1,418)}=8.04^{**}$)。英語科の生徒は上位群も下位群も同様に英語を重要と考えている一方、普通科は上位群と下位群の間で英語に対する考え方に大きな差があることを表している。英語科で成績の振るわない生徒も、英語に対して前向きな意識を持っていることを忘れずに指導を考えていきたい。

■ 表3：目的意識

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	3.55	3.39	2.79	2.89
SD	1.35	1.26	1.23	1.30

英語学習に対する「目的意識」を見てみると、上位群同士の比較で ($F_{(1,358)}=30.76^{**}$)、下位群同士の比較で ($F_{(1,358)}=13.75^{**}$) とそれぞれに1%水準で有意

差が見られ、習熟度に関係なく英語科と普通科の間に大きな差が見られることがわかる。また英語科内では ($F_{(1,358)}=1.27$)、普通科内では ($F_{(1,358)}=0.56$) とどちらにおいても有意差が見られなかった。英語科の生徒が強い目的意識を持っているのは当然ながら、各学科内においては習熟度による有意差が見られなかったことに注目したい。上位であれ下位であれ、英語を勉強しなければならないという気持ちを皆が持っているということを表すと考える。

■ 表4：楽しさ

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	4.15	3.61	3.27	3.07
SD	1.01	1.11	1.14	1.07

英語学習に対する「楽しさ」を比較すると、上位群同士で ($F_{(1,598)}=99.24^{**}$)、下位群同士で ($F_{(1,598)}=36.69^{**}$) とそれぞれで1%水準の有意差が見られた。また英語科内では1%水準で有意 ($F_{(1,598)}=38.51^{**}$)、普通科内では5%水準で有意差が見られた ($F_{(1,598)}=4.87^*$)。普通科よりも英語科で習熟度による差が大きいことがわかる。また、F値を比較してみると、英語科がはるかに大きく (英語科38.51、普通科4.87)、また平均を比較しても、英語科上位群が他の3群より際立って高いことから、英語科上位群が他の3群よりはるかに英語学習を楽しんでいることがわかる。英語科上位の生徒が英語学習を楽しんでいることは、我々の指導が基本的には間違っていないことを表すと考える。反面、上位群と下位群の差が普通科より大きくなっている点を考えると、英語科下位群に対する配慮が不足していると考えられる。

■ 表5：学習に対する姿勢

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	3.39	2.73	2.88	2.47
SD	1.2	1.07	1.27	1.08

「学習に対する姿勢」は、英語学習に対して意欲的な姿勢を持っているかどうかを表す。ここでは上位群同士で1%有意差 ($F_{(1,298)}=12.87^{**}$)、下位群同士

で5%有意差 ($F_{(1,298)}=4.58^{**}$) と下位群においてその差が小さい。英語科下位群の意識の低さが原因と考える。また英語科内 ($F_{(1,298)}=25.15^{**}$)、普通科内 ($F_{(1,298)}=9.15^{**}$) で、共に1%水準で有意差が見られ、上位群と下位群の間で大きな差があることが確認できる。ここでもF値と平均点の比較から、英語科上位群が他より前向きな姿勢を持っていることがわかる。

■表6：適性・自信

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	3.15	2.74	2.75	2.14
SD	1.2	1.23	1.1	1.06

英語学習への「適性・自信」とは、英語学習に取り組む自分をどのようにとらえているかを表すと考える。このカテゴリーでは上位群同士で ($F_{(1,298)}=9.05^{**}$)、下位群同士で ($F_{(1,298)}=20.37^{**}$) と1%水準で有意差が見られた。更に英語科内で ($F_{(1,298)}=8.67^{**}$)、普通科内で ($F_{(1,298)}=24.03^{**}$) と、共に1%水準で有意差が見られた。更に両学科のF値を比較してみると、(英語科8.67、普通科24.03)と普通科が極めて大きな値を示しており、平均でも普通科下位群が他よりはるかに低い値を示していることがわかる。このカテゴリーでは、普通科下位群が他の3群と大きく異なっていると考えられる。普通科下位群は、自分に自信を持たずにいると考えられる。自分に対して際立って低い評価をしている普通科下位群に、自信をつけさせる指導を考えていく必要がある。

■表7：普段の取り組み

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	3.7	3.18	3.11	2.81
SD	1.33	1.35	1.61	1.52

「普段の取り組み」を見ると、上位群同士で ($F_{(1,718)}=29.20^{**}$)、下位群同士で ($F_{(1,718)}=12.18^{**}$) とそれぞれにおいて1%水準での有意差が見られた。更に、英語科内では1%水準での有意差

($F_{(1,718)}=26.93^{**}$)、普通科内では5%水準での有意差 ($F_{(1,718)}=6.61^*$) が見られ、普段の学習では英語科の方が普通科よりも上位と下位で差が大きいことが確認できた。更にF値と平均の比較から、このカテゴリーにおいても、英語科上位群が他の3群よりも際立って前向きなことがわかる。

■表8：テスト直前の取り組み

	英語科		普通科	
	上位	下位	上位	下位
N	30	30	30	30
Mean	4.05	4.02	3.95	3.43
SD	1.24	1.14	1.35	1.32

次に「テスト直前の取り組み」を見ると、上位群同士では有意差が見られず ($F_{(1,418)}=0.69$)、下位群同士では1%水準で有意差 ($F_{(1,418)}=23.69^{**}$) が見られた。また英語科内では有意差が見られず ($F_{(1,418)}=0.08$)、普通科内では逆に1%水準で有意差 ($F_{(1,418)}=15.65^{**}$) が見られた。英語科の生徒は上位群・下位群共に、テスト直前は努力をしていることを示している。ところが普通科では、テスト直前の取り組みにおいて、上位と下位で大きく差が開いてしまった。これは、普通科上位群が、試験前には際立った頑張りを見せる反面、下位群がテスト直前でもあまり努力をしていない結果と考える。テスト直前になっても前向きな姿勢を示せない普通科下位群に対する指導を考える必要がある。

4.4 英語科と普通科の生徒の特徴

英語科の生徒は「英語に対する意識」「目的意識」「テスト直前の取り組み」においては上位・下位の間で差はないが、「楽しさ」「学習に対する姿勢」「適正・自信」「普段の取り組み」では1%水準での有意差が見られた。

英語科の生徒は英語学習に対して前向きな姿勢を持つ集団と考えられる。日常的な学習においては上位層と下位層の間に差が見られたが、試験前になるとその差がなくなることからわかるように、英語学習を頑張ろうという気持ちは十分持っている。こういった集団においては、英語学習を楽しんでいる上位層を良い手本として意識させることが必要と考える。上位層の日常的な学習姿勢が英語力の差につながっていることに気づかせ、その姿勢を学ぶように

指導する必要がある。また、極めて意欲的な上位層を更に伸ばすことが集団全体の向上につながることも忘れてはならない。

普通科の生徒は「目的意識」において上位・下位の間で差はないが、「楽しさ」「普段の取り組み」で5%水準の有意差、「英語に対する意識」「学習に対する姿勢」「適性・自信」「テスト直前の取り組み」において1%水準の有意差が見られた。

普通科の生徒は、試験のために際立って頑張る上位層と、英語学習に対して前向きな意識を持っていない下位層の存在が特徴である。下位層は、自分自身に対しても低い評価を下しており、試験直前になっても意欲的な取り組みを見せない。学習しなければならないという意識は上位層、下位層共に持っているのだが、下位層はそれが実際の学習につながっていない。中学校以来の英語学習での、失敗体験が原因と考える。自分に対する評価を上げられるような経験を与える必要がある。下位層の生徒も英語学習の必要性は認識しており、指導次第で彼らも前向きに学習に取り組む可能性は十分あると考える。指導に当たる我々教員の責任の重さを強調したい。

5 | おわりに

宮城県仙台東高等学校における、英語科と普通科の生徒の英語学習への意識と取り組みを調査したところ、今後の指導に生かせる興味深い結果が得られた。

参考文献 (*は引用文献)

- *Cummins, J.(1980). The cross-lingual dimensions of language proficiency: implications for bilingual education and the optimal age issue. *TESOL Quarterly*, 14, 2,175-188.
- 垣田直巳(監). (1993). 『英語教育モノグラフシリーズ・英語の学習意欲』. 東京:大修館書店.
- 小池生夫(監). (1994). 『第二言語習得に基づく最新の英語教育』. 東京:大修館書店.
- *Larsen-Freeman, D. and Long, M.H.(1991). *An introduction to second language acquisition research*. NewYork: Longman.
- *Oxford, R.L.(1990). *Language learning strategies: what every teacher should know*. NewYork:

- ・英語科と普通科の生徒は基本的に異なった集団であるが、学力に関係なく皆が英語学習に対する目的意識を持っている。
- ・英語科の生徒は皆が英語を大切だと思っているが、特に上位層の生徒が英語学習を大変楽しんでおり、普段の学習にも意欲的に取り組んでいる。
- ・普通科では、下位層の生徒が英語学習に自信を持っておらず、テスト直前でも真剣に学習に取り組む姿勢に欠けている。

このことから、実際の指導に当たっては次の点に配慮をすべきと考える。

- ・英語科のような「英語学習に対して前向きな集団」においては、上位層を活用した指導を考えていく必要がある。
- ・普通科のような「意欲に欠ける下位層がいる集団」においては、下位層に対して特に配慮をした指導を考えていく必要がある。

今後も、それぞれの生徒が持つ学習者要因や、その集団の持つ特徴に考慮をしながら、効果的な英語指導法を求めて実践を続けていきたい。

謝 辞

本研究の機会を与えてくださった(財)日本英語検定協会、選考委員の先生方、とりわけ貴重なご助言をいただいた羽鳥博愛先生に心より御礼を申し上げます。

Newbury House.

- *Skehan, P.(1989). *Individual differences in second-language learning*. London: Edward Arnold.
- 田中敏. (1996). 『実践心理データ解析』. 東京:新曜社.
- 田中敏・山際勇一郎. (1992). 『ユーザーのための教育心理統計と実験計画法』. 東京:教育出版.
- *Wesche, M.(1981). Language aptitude measures in streaming, matching students with methods, and diagnosis of learning problems. In Diller, K.(ed.). (1981). *Individual differences and universals in language learning aptitude*. Rowley, MA: Newbury House.

資料：各質問項目の平均と標準偏差

質問項目	英語科全体 (N=71)		普通科全体 (N=79)		英語科上位群 (N=30)		英語科下位群 (N=30)		普通科上位群 (N=30)		普通科下位群 (N=30)	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
○英語に対する意識												
国際社会で重要である	4.63	0.70	4.47	0.88	4.77	0.57	4.53	0.86	4.77	0.43	4.27	1.11
世界の共通語である	4.31	0.92	3.85	1.21	4.23	1.07	4.47	0.68	4.07	1.11	3.70	1.26
すべての職業で必要である	3.24	1.15	2.90	1.15	3.27	1.26	3.30	1.06	3.20	1.06	2.67	1.21
義務教育として皆が学ぶべきである	3.20	1.41	2.98	1.34	3.10	1.42	3.33	1.40	3.17	1.29	2.87	1.33
将来使える	3.56	1.23	2.66	1.19	3.93	1.11	3.30	1.29	2.73	1.28	2.57	1.19
他教科より役立つ	4.10	1.04	3.57	1.05	4.20	1.10	4.03	0.93	3.83	0.99	3.50	1.04
話せるとかっこいい	4.47	0.95	3.96	1.37	4.43	1.10	4.47	0.90	4.10	1.12	3.77	1.55
○目的意識												
受験のため	2.59	1.42	3.44	1.37	2.80	1.42	2.63	1.40	3.27	1.44	3.60	1.28
話せるようになるため	4.13	1.17	2.73	1.26	4.57	0.82	4.03	1.22	2.83	1.23	2.60	1.22
一般常識として	2.75	1.04	3.22	1.12	2.63	1.16	2.83	0.99	3.17	1.21	3.33	0.99
仕事のため	3.86	1.27	2.60	1.16	4.07	1.20	3.87	1.20	2.57	1.01	2.60	1.28
趣味に生かすため	3.47	1.24	2.75	1.33	3.53	1.36	3.50	1.01	2.47	1.20	2.63	1.38
外国の文化を学ぶため	3.60	1.13	2.62	1.20	3.70	1.09	3.50	1.14	2.47	1.07	2.60	1.33
○楽しさ												
外国語学習が楽しい	4.42	0.79	3.80	0.95	4.63	0.76	4.30	0.75	3.93	0.91	3.60	0.89
英会話の学習が楽しい	4.27	0.89	3.38	1.03	4.43	0.86	4.13	0.78	3.33	1.09	3.33	0.92
読むことが楽しい	4.17	0.91	3.34	1.11	4.53	0.63	3.90	0.92	3.37	1.22	3.33	0.99
書くことが楽しい	3.83	0.99	3.11	0.99	4.20	0.85	3.50	0.86	3.00	0.98	3.20	0.92
話すことが楽しい	4.23	0.96	3.33	1.07	4.50	0.73	4.10	0.84	3.27	1.08	3.30	0.95
聞くことが楽しい	4.11	0.95	3.15	1.18	4.40	0.72	3.90	0.99	3.50	1.22	2.90	1.12
単語を覚えることが楽しい	3.14	1.07	2.30	0.99	3.40	1.07	2.87	0.90	2.70	1.15	2.07	0.78
文法学習が楽しい	2.66	1.15	2.25	0.97	3.10	1.21	2.23	0.94	2.53	1.04	2.17	0.87
外国文化の学習が楽しい	4.39	0.90	3.82	1.11	4.53	0.82	4.17	1.02	3.73	1.14	3.67	1.18
授業が楽しい	3.32	1.07	3.17	0.90	3.73	0.98	3.00	1.02	3.33	0.96	3.13	0.82
○英語学習に対する姿勢												
意欲的に取り組む	3.63	1.03	3.20	1.04	3.90	1.06	3.40	0.89	3.63	0.93	2.67	1.03
まじめに取り組む	3.69	0.82	3.60	0.90	3.87	0.78	3.60	0.86	3.97	0.81	3.33	0.84
毎日勉強している	2.65	1.14	2.22	1.17	2.93	1.23	2.27	0.83	2.50	1.33	1.93	0.98
わからないとやる気が出る	2.61	1.27	2.24	1.07	3.17	1.26	2.20	1.00	2.07	0.91	2.40	1.13
積極的に質問をする	2.63	1.21	2.13	1.01	3.10	1.32	2.20	0.81	2.23	1.07	2.00	0.83
○適性・自信												
英語学習に興味ある	4.28	0.96	3.52	1.22	4.40	1.00	4.33	0.80	3.60	1.13	3.30	1.24
単語を覚えるのが得意	2.41	1.01	2.17	0.98	2.70	1.02	2.20	0.92	2.53	1.01	1.87	0.82
文法の学習が得意	2.34	1.06	2.09	0.94	2.87	1.01	1.97	0.93	2.57	0.90	1.77	0.68
英語でのコミュニケーションが得意	2.76	1.09	2.08	0.99	2.83	1.05	2.80	1.10	2.27	1.05	1.80	0.81
英語の学習に自信がある	2.64	1.05	2.32	1.02	2.97	1.07	2.40	0.77	2.80	1.00	1.97	0.85

質問項目	英語科全体 (N=71)		普通科全体 (N=79)		英語科上位群 (N=30)		英語科下位群 (N=30)		普通科上位群 (N=30)		普通科下位群 (N=30)	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
○普段の取り組み												
単語熟語調べをする	4.07	1.05	4.08	1.19	4.40	0.81	3.60	1.19	4.40	0.81	3.73	1.44
音読をする	3.55	1.26	2.61	1.40	3.83	1.29	3.33	1.18	2.70	1.53	2.53	1.25
訳す	3.76	1.22	3.84	1.18	4.03	1.00	3.40	1.22	4.20	1.03	3.57	1.30
本文を写す	3.85	1.41	4.05	1.28	4.20	1.37	3.73	1.23	4.30	1.18	3.80	1.37
参考書を活用する	2.20	1.00	2.13	1.17	2.33	1.09	2.23	0.94	2.10	1.18	2.17	1.12
宿題をする	3.73	1.07	3.25	1.37	4.07	0.78	3.57	1.22	3.43	1.45	3.23	1.25
ノートを見直す	3.58	1.22	2.89	1.41	3.87	1.04	3.53	1.22	3.33	1.45	2.80	1.49
質問をする	3.39	1.30	2.86	1.28	3.67	1.24	3.27	1.26	2.97	1.27	2.87	1.33
学校外で勉強をする	3.16	1.49	2.43	1.66	3.47	1.41	3.07	1.51	2.63	1.65	2.03	1.54
辞書を使用する	4.49	1.00	4.25	1.01	4.80	0.55	4.10	1.32	4.53	0.73	3.93	1.31
ALT と話す	3.01	1.30	1.54	1.02	3.37	1.35	2.63	1.10	1.20	0.61	1.73	1.23
TV・ラジオを使う	2.06	1.32	1.38	0.82	2.40	1.43	1.73	1.01	1.50	1.01	1.30	0.65
○テスト直前の取り組み												
単語や熟語を暗記する	4.38	1.00	3.81	1.31	4.50	0.86	4.37	0.93	4.23	1.14	3.33	1.47
文法を覚える	4.21	0.98	3.87	1.20	4.37	0.93	4.07	1.05	4.23	1.04	3.67	1.32
教科書を見直す	4.52	0.71	4.24	1.02	4.47	0.78	4.57	0.57	4.33	1.06	4.03	1.13
ノートを見直す	4.39	0.93	4.27	1.15	4.47	1.01	4.40	0.72	4.53	1.07	4.13	1.17
問題集を活用する	3.27	1.41	3.34	1.43	3.50	1.36	3.27	1.39	3.67	1.54	3.17	1.21
例文を書いて覚える	3.31	1.38	2.75	1.29	3.10	1.49	3.43	1.25	2.97	1.40	2.53	1.07
重要事項に下線を引く	3.89	1.35	3.52	1.34	3.97	1.38	4.03	1.25	3.67	1.49	3.17	1.21